

平成 31 年度

佐賀大学理工学部

3 年次編入学

第 2 次学生募集要項

一 般 入 試

佐 賀 大 学

目 次

I	入学者受入れの方針（アドミッショントリニティ・ポリシー）	1
II	一般入試	8
III	出願上の留意事項	13
IV	障がい等を有する志願者との事前相談について	13
V	個人情報の取扱いについて	13
VI	入学志願票等の記入上の注意及び記入例	14
VII	入学手続等	17
VIII	佐賀大学配置図及び佐賀大学への交通案内	19

※出願方法について

佐賀大学3年次編入学試験への出願は、佐賀大学入試課のホームページからダウンロードした出願書類を市販の用紙に印刷して提出する方法を採用しています。

A4サイズの印刷が可能なプリンタ等がない方、ファイルがうまく表示されない方は、佐賀大学入試課に資料請求をしてください

●出願に際して

- ・本学ホームページから必要なファイルをダウンロードしてください。

出願書類については、本要項記載の「出願に必要な書類等」でご確認ください。

- ・検定料は振込依頼書を印刷し、銀行で振り込み手続きを行ってください。

- ・印刷した出願用封筒ラベルを市販の角形2号の封筒に貼付し、書類一式を入れて提出してください。

佐賀大学の求める入学者

佐賀大学は、学生と緊密にコミュニケーションできる総合大学として、人格形成、専門知識・技術の修得、そして基礎から実用開発にいたるまで、能力を最大限に伸ばすこと目標に人材育成と研究活動を展開します。

佐賀大学の教育目標は、高度情報化社会で活躍できる情報基礎と専門知識を修得させること、地域文化を理解し地域に根ざした活動を行うための素養を持たせること、国際化時代にふさわしい異文化理解とコミュニケーション能力を修得させることです。

佐賀大学は、チャレンジ精神を持ち、問題を自発的に探求・解明し、社会に貢献できることを人生目標とする学生を求めていきます。

【1】求める学生像

理工学部は、幅広い教養と科学・技術の専門的な素養を持ち、社会の広い分野で活躍できる人材を育成することを目的とします。各学科の目的と求める学生像は以下の通りです。

■数理科学科

数理科学科では、数学及び数理科学の領域において、広く社会で活躍できる高度な専門的知識・能力を持つ教育者、技術者、研究者となる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 数学および数理科学の分野の専門知識を修得し、論理的思考力、問題解決能力を身につけることを目指す人
- ② 数学および数理科学の分野で、専門的知識を社会に活用できる教育者、技術者を目指す人

[数理科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み]

数学の概念や論理的厳密性を修得するためには、微分積分、線形代数、集合・位相といった数学の基本的な考え方や手法を身につけることが必要です。そのためには、高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。さらに、自然科学の基本的な概念や原理・法則を理解して科学的な自然観を養っておくことは、学びの視野を広げることに繋がります。そのため、高等学校で学ぶ理科についても教科書レベルの知識を有していることが望まれます。一方、専門科目に限らず、大学では多くのレポートを書くことが一般的です。レポート作成には、文章の読解力と記述力さらには社会的な常識が必要となります。したがって、高等学校で学ぶ国語や社会の基礎的な学力は必要です。さらに、日本語文献だけでなく英語文献などもセミナー形式で学習しますので、英文の基礎的な読解力だけでなく、自分で辞書等を調べて英文を読みこなす習慣をつけておくことが必要です。

■物理科学科

物理科学科では、広範な自然現象を理解する試みを通して、現代の科学技術を支える学力と、柔軟性に富んだ豊かな発想力を培い、広い分野で活躍できる人材を育成します。そのため、以下に示すような学生を求めています。

- ① 理数系科目の学力に優れ、自然科学に対して強い興味を持つ人

[物理科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み]

物理学における基本的な概念や法則を理解するためには、高等学校で履修する物理と数学の基本的事項の理解および計算能力だけでなく、それらの知識に基づく論理的な思考力が求められます。また、実験や観測を通して法則を見出すための洞察力も必要です。さらに、専門的な知識や考え方を修得するためには、海外の文献にも目を通すことが必要であり、高等学校の教科書レベルの英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解およびレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

■知能情報システム学科

知能情報システム学科では、情報科学及び情報工学の学問領域における専門知識・能力及び広い視野を持ち、知識基盤社会を担う人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めていきます。

- ① 全般的な基礎学力を備え、特に数学、理科の学力を備えた人
- ② ITに対する興味と基礎知識がある人
- ③ ソフトウェア開発や情報システムの構築に取り組む意欲のある人

[知能情報システム学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み]

知能情報システム学科では、ITの理論の専門基礎を重点的に教育します。そのため、高等学校で数学及び理科の基礎事項を理解し、教科書レベルの問題を解く能力を求める。文書作成、口頭発表の能力を育成しますので、国語の学力が重要です。専門文献を読むため及び国際社会で活躍するための語学教育に必要な英語の学力も要求します。また、幅広い文化、自然、社会の素養を修得するために広範な基礎学力も必要です。本学科では、実験科目や卒業研究を通してグループの中での協調性、自主的学習能力、情報収集能力などを育成します。したがって、良識的に行動し、高い学習意欲を持ち、知識の獲得に積極的な学生の入学を望みます。

■機能物質化学科

機能物質化学科では、化学を通して継続的に社会に貢献することのできる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めていきます。

- ① 日頃から身の回りにある物質・材料がどのような化合物からできていて、その機能はどのような原理に基づいているのかを興味を持って調べ、自らの手で新しい機能物質を創り出すことに意欲を持つ人
- ② 化学はもちろん生物・物理・数学など理数系科目が得意で、国語・社会・英語などの基礎学力を身に付けた人

[機能物質化学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み]

化学は、物質の構造や機能の関係性を明らかにするために、様々な物質を詳細に調べ、新しい物質の合成や分解を行います。そのため、既存物質の特性を正確に把握し、必要な仮説と検証実験、そして得られた結果の論理的説明が求められます。このように化学を専門的に学ぶためには、高等学校で学習する化学の基本事項を十分に理解していることが必要です。また、実験等で取得したデータ解析には、計算能力や数学的思考力が求められ、物質の物理的性質や生物的性質を理解するためには物理学や生物学の知識が必要となります。したがって、高等学校で学習する数学、物理および生物の基礎学力は、化学を専門的に理解するためには欠かせないものです。さらに、新しい知識や技術を身につけるためには、外国の文献等にも目を通す必要があり、基礎的な英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解およびレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

■機械システム工学科

機械システム工学科では、機械工学及びその関連の領域において、専門的な基礎知識及びその応用力並びにものづくりの素養を身に付けた技術者となる人材を育成します。

- ① 理数系の基礎学力とともに倫理観を持ち、「ものづくり」に興味のある人

[機械システム工学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み]

機械工学は、すべてのものづくりに欠かせない技術であり、それを修得するためには、高等学校で学ぶ数学と物理および化学の基本的事項を理解し、教科書レベルの基本問題を解く能力を十分身につけておく必要があります。また、講義を理解して、レポートを作成したり、自分が調べたものを発表するためには、読解力や記述力を中心とする国語能力だけでなく、現代社会の仕組みや歴史、文化など高等学校の社会科で学ぶ一般的な知識も求められます。さらに、英文の読解や作成、外国人とのコミュニケーションなど様々な分野で将来的に活躍するためには、高等学校で学ぶ基礎的な英語力は欠かせないものです。そして、ものづくりを通した社会への貢献に興味と熱意を持つことを期待します。

■電気電子工学科

電気電子工学科では、電気工学及び電子工学の領域における専門的知識・能力を持ち、社会で活躍できる人材を育成します。

- ① エレクトロニクスや情報通信関連のハードウェアやソフトウェアなどの「もの創り」への関心を持ち、あるいは世界的視野に立ったエネルギーや環境問題などにも興味を持った意欲ある人
- ② 高校時代においては数学、物理、化学などの理数系科目の基礎学力をしっかりと身につけた人

[電気電子工学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み]

電気電子工学科に入学した学生は、日本の誇る大企業や九州の有力企業をはじめとする社会の第一線で活躍できるよう、電気電子工学に関連した様々な理数系専門科目を学びます。技術文書を正確に書く練習や、技術英語の修得も行います。そして、それらを駆使して社会に役立つものを創り出す研究活動も行います。そのため、入学時点で、数学、物理、化学などの理数系科目の基礎学力をしっかりと身についていることが必要です。国語、英語、社会の基本的な知識を学んでいることも必要です。高校等での学習においては、教科書の範囲で解ける標準的な問題を、確実に解けるようにすることを望みます。社会で活躍できることを目指して育成しますので、もの創りへの関心や、エネルギーや環境問題等への興味が必要であり、男女を問わず意欲ある人の入学を望みます。

■都市工学科

都市工学科では、都市工学の領域における専門的知識・能力を持ち、社会で活躍できる人材を育成します。

- ① 私たちの暮らしを支える社会基盤や自然環境、建築デザインなどに興味のある人
- ② 専門教育に必要な基礎学力と勉学意欲を有している人
- ③ 自律的な学習を支える責任感、チャレンジ精神とやり遂げる強い意志を持つ人

〔都市工学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み〕

都市における交通体系や水・エネルギー供給のライフライン、建築物等のさまざまな社会基盤・施設の整備と安全・安心の確保は非常に重要ですが、同時に自然環境や歴史、風土等との調和も必要です。都市工学科では、都市や地域に関する理解、形態や空間を扱うデザインも学問対象としていますので、様々な社会的事象および文化や歴史についても関心を持つことが求められます。したがって、都市工学科の志願者には、高校で学ぶ数学・物理など自然科学の基礎力、論理的思考を支える国語力、英語で書かれた文献の理解のための英語力、さらに地域の文化や歴史に目を向け得るための社会的な基礎知識などが求められます。

【2】入学者選抜の基本方針

理工学部の教育理念に基づき、教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とした多様な入試方法と多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

一般入試

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とした一般入試を行います。一般入試では、「前期日程」と「後期日程」の2つの入試区分により、異なる観点から入学希望者を選考します。

【前期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、個別試験によって数学と理科の基礎学力を評価します。

【後期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、各学科の専門科目と特に関係の深い教科および科目について高い学力を有しているかを判断するために、個別試験によって各学科が指定する科目の学力を評価します。

特別入試

一般入試とは異なる観点により、多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象に特別入試を行います。特別入試では、「推薦入試Ⅰ」、「推薦入試Ⅱ」及び「帰国子女」の3つの入試区分により、入学希望者を選考します。

【推薦入試Ⅰ】

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、調査書、小論文および口頭試問によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【推薦入試Ⅱ】

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力、適正および明確な入学の意思を有しているかを判断するために、調査書と推薦書によって評価します。

【帰国子女】

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、書類審査、小論文および口頭試問によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

編入学試験

各学科の専門分野において、さらに高度な専門教育・研究を希望する他教育機関からの学生を対象に3年次編入学試験を行います。編入学試験では、「一般入試」、「推薦入試」および「外国人留学生特別入試」の3つの区分により、入学希望者を選考します。

【一般入試】

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、学力検査、口頭試問および成績証明書等によって評価します。また、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、面接試験によって評価します。

【推薦入試】

出願要件を満たし、各所属長から推薦されることを前提とします。その上で、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、推薦書、小論文および口頭試問によって評価します。また、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【外国人留学生特別入試】

出願要件を満たし、各所属長から推薦されることを前提とします。その上で、入学後の学習に必要な日本語の習得について判断するために、日本留学試験の成績を用いて評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、学力検査、口頭試問および成績証明書等によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、面接試験によって評価します。

私費外国人留学生入試

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生入試を行います。本入試では、大学で学習するために必要な基礎学力として、日本留学試験、TOEFLの成績および面接試験によって入学後の学習に必要な語学力について評価すると同時に、日本留学試験、書類審査および口頭試問によって汎用的な学力を有しているかを評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

理工学部で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

観点	入学後に必要な能力や適性等	評価方法	入試方法
知識・理解・思考・判断	大学で学ぶために必要な汎用的な学力	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ）
		調査書において、高校時代における学業成績、学習態度を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（推薦入試Ⅱ）
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女）
		書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	特別入試（帰国子女）
		日本留学試験において、理系科目の成績を用いて評価する。	私費外国人留学生入試
		口頭試問によって、志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	私費外国人留学生入試
		日本留学試験において、日本語科目を用いて基本的な語学力を評価します。	私費外国人留学生入試
		TOEFLの得点を用いて、基礎的な英語力を評価します。	私費外国人留学生入試
	専門科目を学ぶために必要な基礎学力	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ）
		個別試験において、高校で履修する数学、物理および化学に関する標準的な知識と理解、数理的な解析力、それに基づく論理的思考と表現力について記述式によって評価します。	一般入試（前期日程）
		個別試験において、高校で履修する数学、物理および化学の中から1つの科目について、深い知識と理解および応用力、数理的な解析力、それに基づく論理的思考と表現力について記述式によって評価します。	一般入試（後期日程）
		口頭試問によって、志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試 3年次編入学試験（一般入試）
		調査書において、専門科目を理解できる基礎学力及び適正を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅱ）
		学力検査において、数学、英語、専門科目に関する標準的な知識と理解、それに基づく論理的な思考力について記述式によって評価します。	3年次編入学試験（一般入試）
興味・関心・態度・意欲	志望学科で学ぶための明確な志望動機や入学後の学習意欲	調査書において、高校時代における課外活動や志望学科での学習と関連する実績等を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ）
		推薦書において、推薦の理由を参考にします。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（推薦入試Ⅱ）
		面接試験において、志望学科で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試

1 募集学科及び募集人員

学 科	コ ー ス	募集人員
数理科学科		
物理科学科		
知能情報システム学科		
機能物質化学科	物質化学コース	2人
	機能材料化学コース	
機械システム工学科		
電気電子工学科		
都市工学科	都市環境基盤コース	
	建築・都市デザインコース	

(備考) 機能物質化学科及び都市工学科は、入学後それぞれのコースに分かれます。

2 編入学年次

平成 31 年 4 月 1 日に 3 年次に編入学します。

3 出願資格

次のいずれかに該当する者とします。

- (1) 高等専門学校を卒業した者及び平成 31 年 3 月までに卒業見込みの者
- (2) 短期大学を卒業した者及び平成 31 年 3 月までに卒業見込みの者
- (3) 大学を卒業した者及び平成 31 年 3 月までに卒業見込みの者
- (4) 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者
及び平成 31 年 3 月までに授与される見込みの者
- (5) 大学に 2 年以上（休学期間を除きます。）在学し、62 単位以上を修得した者及び編入学時までに
大学に 2 年以上（休学期間を除きます。）在学し、62 単位以上を修得見込みの者
- (6) 学校教育法第 58 条の 2 の規定による高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。）の専攻科
の課程（修業年限が 2 年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限りま
す。）を修了した者（学校教育法第 90 条第 1 項に規定する者に限ります。）

4 対象となる学科等

学科	区分	対象となる 高等専門学校の学科	対象となる 短期大学の学科	対象となる大学
数理科学科		全学科		「3 出願資格」の(3)～(5)に該当する者で、微分積分学、線形代数学の単位修得（見込み）の者
物理科学科		物理学関連学科（注1）		物理学科等の物理学関連学科
知能情報システム学科		理工系の情報系学科（注2）	理工系の情報系学科（注2）	「3 出願資格」の(3)～(5)に該当する者
機能物質化学科	物質化学コース	化学関連学科	化学関連学科	「3 出願資格」の(3)～(5)に該当する者
	機能材料化学コース			
機械システム工学科		機械系関連学科	機械系関連学科	「3 出願資格」の(3)～(5)に該当する者
電気電子工学科		電気系学科（注3）	電気系学科（注3）	「3 出願資格」の(3)～(5)に該当する者
都市工学科	都市環境基盤コース	土木建築・都市系学科	土木建築・都市系学科	「3 出願資格」の(3)～(5)に該当する者
	建築・都市デザインコース			

（注1）物理関連学科とは、機械系・電気系など、基礎的な物理学の内容を必須科目として開講している学科を言います。

これに関して不明な場合は、出願前に学務部入試課に問い合わせてください。

（注2）情報系学科の範囲について不明な場合は、出願前に学務部入試課に問い合わせてください。

（注3）電気系学科の範囲について不明な場合は、出願前に学務部入試課に問い合わせてください。

5 出願期間

平成31年1月4日（金）～平成31年1月11日（金）

ア 持参の場合は、土曜日、日曜日及び祝日を除き、毎日9時から17時まで受け付けます。

イ 郵送の場合は、「簡易書留」とし、下記の日時までに必着するよう送付してください。

平成31年1月11日（金）17時まで

ウ 角形2号の封筒に本学所定の封筒表紙を貼付し提出してください。

6 出願に必要な書類等

区分	備考
入学検定料 (30,000 円)	本学所定の検定料振込依頼書を使用し、銀行窓口において検定料を納入してください。なお、次の場合以外は、いかなる理由があっても既納の検定料は一切返還しません。 ・検定料を振り込んだが、本学に出願書類を提出しなかった場合 ・検定料を振り込み、本学に出願書類を提出したが、受理されなかった場合 ・検定料を誤って二重に振り込んだ場合
検定料振込証明台紙	上記検定料を納入後、銀行窓口において受領する「C 票 検定料振込証明書」を台紙に貼り付けてください。
入学志願票・ 写真票・受験票	※以外の所定の欄はすべて記入してください。 写真は上半身、脱帽、正面向きで、出願前 3 か月以内に撮影したものを所定の欄に貼り付けてください。
成績証明書	最終学歴（中途退学を含みます。）の成績証明書
卒業証明書又は 卒業見込み証明書（注 1）	4 年制大学を中途退学した者は在学期間証明書を、在学中の者は在学証明書を提出してください。
調査書	本学所定の用紙を用いてください。（出身学校長が作成し、厳封したもの）ただし、調査書の提出が困難な場合は、志願理由書を提出してください。
志願理由書	調査書の提出が困難な者は提出してください。
出願承認書	本学所定の用紙を用いてください。（ただし、在職中の者に限ります。）
返信用封筒	受験票を送付しますので、長形 3 号の封筒の表面に受取人の住所、氏名、郵便番号を明記し、「受験票在中」と朱書きの上、82 円分の切手を貼り付けてください。
住所届	本学所定の住所届に必要事項を記入してください。
「住民票」又は「在留カード」の写し	○日本国籍を有しない者で、現に日本国内に在住しているときは、市区町村長の発行する「住民票の写し」（在留資格が記載されたもの）を提出してください。（在留カードの表裏両面をコピーしたものでも可） ○出願時に日本国内に在住していない者は、パスポートの写し（写真及び在留資格・期間の分かれるページ）を提出してください。

（注 1）合格者について、平成 31 年 3 月卒業見込みの者（本学出身者は除きます。）は「卒業証明書」を、出願資格(4)にかかる学位取得見込みの者は「学位記」の写し又は「学位授与証明書」を卒業後速やかに提出してください。また、出願資格(5)にかかる編入学時までに大学に 2 年以上（休学期間を除きます。）在学し、62 単位以上を修得見込みの者は、「在学期間証明書」及び「成績証明書」を平成 31 年 3 月 31 日までに提出してください。

東日本大震災又は熊本地震で被災された佐賀大学志願者への入学検定料の免除について

1. 免除申請の要件

入学検定料の免除を申請できるのは、次に該当する者です。

(ア) 東日本大震災における災害救助法が適用されている地域で被災した志願者で、次のいずれかに該当する者

- ① 主たる家計支持者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊、流失した場合
- ② 主たる家計支持者が死亡又は行方不明の場合

(イ)居住地が福島第一原子力発電所事故により、帰還困難区域、居住制限区域又は避難指示解除準備区域に指定された者

(ウ)熊本地震で被災した志願者で、次のいずれかに該当する者

- ① 主たる家計支持者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊、流失した場合
- ② 主たる家計支持者が死亡又は行方不明の場合

2. 申請方法

事前に学務部入試課に連絡し、該当すると判断された者は、所定の申請書類を出願書類とともに提出してください。

3. 申請書類

(ア)「入学検定料免除申請書」

本学ホームページ「入試案内、3年次編入学、募集要項」からダウンロードできます。

なお、ご請求頂ければ、郵送により送付します。

(イ)「り災証明書（写し可）」（上記1.(ア)の①又は(ウ)の①に該当する者）

(ウ)「死亡又は行方不明を証明する書類」（上記1.(ア)の②又は(ウ)の②に該当する者）

(エ)「被災証明書（写し可）」（上記1.(イ)に該当する者）

7 入試方法

入学者の選抜は、学力検査等の成績、面接等、成績証明書の内容等の結果を総合して、合格者を決定します。

8 試験日時等

(1) 試験日時：平成31年2月5日（火）

受験者は、受験票とともに送付される受験案内に記載されている試験室に（数理科学科受験者は面接控室に）試験開始30分前までに入室してください。

志望学科	試験科目	試験時間
数理科学科	口述試験及び面接	13:00～
物理科学科	数学	9:20～10:50
知能情報システム学科	英語	11:00～12:00
機能物質化学科	専門科目	13:00～15:30
機械システム工学科	面接	15:40～
電気電子工学科		
都市工学科		

(備考) 学科によって志願者数により終了時刻が遅くなる場合がありますので、留意ください。

(2) 数学、専門科目及び口述試験

学 科	数 学	専門科目	口述試験
数理科学科			微分積分学 線形代数学
物理科学科	微分積分学 線形代数学	力学、電磁気学	
知能情報システム学科	微分積分学 線形代数学	プログラミング、電子計算機	
機能物質化 学科	物質化学コース	微分積分学	化学
	機能材料化学コース		
機械システム工学科	微分積分学 線形代数学 常微分方程式	材料力学、流体工学、機械工作、熱力学（2科目を選択解答）	
電気電子工学科	微分積分学 線形代数学 常微分方程式	電磁気学、電気回路	
都市工学科	都市環境基盤コース	微分積分学 線形代数学 常微分方程式	水力学、構造力学、土質力学、建築環境工学、建築計画学、建築デザイン学（3科目を選択解答）
	建築・都市デザインコース		

※ 電卓の持ち込みはできません。

9 試験場

佐賀大学理工学部

10 合格者発表

平成 31 年 2 月 13 日（水）10 時

本学ホームページに合格者の受験番号を掲載するほか、合格者には本学所定の合格通知書をもって通知します。

なお、電話による合否に関する問い合わせには一切応じかねますのでご了承ください。

III

出願上の留意事項

- (1) 出願書類を郵送する場合は、所定の封筒に必要事項を記入の上、「簡易書留」としてください。
- (2) 入学志願票の記入事項及び書類等の不備のものは受け付けません。
- (3) 出願書類受理後は、いかなる理由があっても記入事項及び書類の変更は認めません。
また、納入された入学検定料及び出願書類は、いかなる事情があっても返還しません。
- (4) 合格通知書及び入学手続書類は、「住所届」に記載された現住所に送付しますので、正確に記入してください。
なお、出願後、住所に変更があった場合は、電話連絡するとともに、ハガキ等でもお知らせください。

IV

障がい等を有する志願者との事前相談について

障がい等を有する志願者で、受験上及び修学上の配慮を必要とする方は、出願前に下記の内容を記載した申請書（様式は任意）及び添付書類を入試課に送付し相談してください。

なお、本学では、学生支援室を設置して、障がい等のある学生及び障がい等のある入学志願者への支援を行っています。

*申請書の内容

志願学部・学科

障がいの種類・程度

受験上の配慮を希望する事項

修学上の配慮を希望する事項

出身学校等でとられていた配慮

日常生活の状況

連絡先（氏名、電話番号、住所、出身高校）

○相談の時期

出願開始の1週間前まで

なお、相談の内容によっては、本学の試験までに対応できず、配慮を希望される措置が講じられない場合がありますので、可能な限り早めに相談してください。

また、期限後に本学を志願することとなった場合及び不慮の事故等により障がいを有することとなった場合は、その時点で速やかに相談してください。

V

個人情報の取扱いについて

独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律の施行に伴い、入学志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については、入学者選抜に係る業務（統計処理などの付随する業務を含む。）以外に、教育目的等「入学料・授業料免除（入学料徴収猶予）及び奨学金等を含む。」に利用します。

※ 本学が取得した個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」

第9条に規定されている場合を除き、出願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用

又は第三者に提供することはありません。

- (1) 志願票の記入に当たっては、募集要項を熟読の上、下記の「記入例」に従い、必ず志願者本人が記入してください。
- (2) 記入に当たっては、手書きの場合、ペン（黒）又はボールペン（黒）を用い、文字及び数字（算用数字）は、丁寧に記入してください。
- (3) ※印欄は、記入しないでください。

（記入例）

「志望学部、学科」及び「コード（第4表参照）」の欄

志望学部、学科	コード（第4表参照）	
理工 学部	1	3
数理科 学科	5	A

- 志望学部、学科欄は、志望する学部名等を正確に記入してください。コード（第4表参照）の欄は「第4表」により、志望学部、学科コード番号の数字等を1コマ1ケタずつ、正確に記入してください。

「氏名」の欄

漢字 (アルファベット)	佐賀	学					
氏名							
フリガナ (カタカナ)	サガ	マナブ					

●漢字等氏名

常用漢字で記入してください。
(JIS漢字コードの第1・第2水準以外の文字を含む場合、その文字が置き換えられます。)

【置き換える文字の例】

高 → 高

崎 → 崎

土 → 土

吉 → 吉

「性別」及び「生年月日」の欄

性別		生年月日					
男	女	西暦年		月	日		
<input type="radio"/>		1	9	9	8	0	8
		2	3				

●性別欄は、該当する方に○を記入してください。

●生年月日を記入する欄で、月及び日が1ケタの場合は右づめとし、前1コマに「0」を記入してください。

「出身県等」及び「出身学校等」の欄

出身県等	留 学 生	選抜種別	出身学校等							
第1表 参照	国・地域 第2表参照	X	第3表 参照	卒業等年月				西暦	年	月
				1	2	0	1			
4	1		2	1	2	0	1	9	0	3

- 出身県等欄は、「第1表」により、出身県等のコード番号の数字を1コマ1ケタずつ、正確に記入してください。
- 留学生については、「第2表」により、該当する国・地域のコード番号の数字を1コマ1ケタずつ、正確に記入してください。
- 出身学校等欄は、「第3表」により、出身学校等のコード番号の数字を1コマ1ケタずつ、正確に記入し、卒業等年月（見込みを含みます。）を西暦で記入してください。

「最終学歴」の欄

- 最終学歴を正確に記入してください。

「現住所及び連絡先等」の欄

- 本学から出願書類等について連絡する場合もありますので、正確に記入してください。
なお、出願後、この欄に変更があった場合は、電話連絡するとともに、ハガキ等でもお知らせください。

「住所届」

- 合格通知書は、これに記載された現住所に送付しますので、正確に記入してください。
なお、出願後、住所に変更があった場合は、電話連絡するとともに、ハガキ等でもお知らせください。

(第1表) 都道府県等コード

北海道	01	埼玉県	11	岐阜県	21	鳥取県	31	佐賀県	41
青森県	02	千葉県	12	静岡県	22	島根県	32	長崎県	42
岩手県	03	東京都	13	愛知県	23	岡山県	33	熊本県	43
宮城县	04	神奈川県	14	三重県	24	広島県	34	大分県	44
秋田県	05	新潟県	15	滋賀県	25	山口県	35	宮崎県	45
山形県	06	富山県	16	京都府	26	徳島県	36	鹿児島県	46
福島県	07	石川県	17	大阪府	27	香川県	37	沖縄県	47
茨城县	08	福井県	18	兵庫県	28	愛媛県	38		
栃木県	09	山梨県	19	奈良県	29	高知県	39		
群馬県	10	長野県	20	和歌山县	30	福岡県	40	外 国	99

(第2表) 国・地域コード

パキスタン 101	大韓民国 113	イラン 201	ガーナ 311	ルクセンブルク 709
インド 102	モンゴル 114	トルコ 202	ウガンダ 312	オランダ 710
ネパール 103	ベトナム 115	イスラエル 203	エチオピア 320	ドイツ 711
バングラデシュ 104	中華人民共和国 116	シリア・アラブ共和国 204	オーストラリア 401	フランス 712
スリランカ 105	カンボジア 117	バーレーン 215	ニュージーランド 402	スペイン 713
ミャンマー 106	ブルネイ 120	エジプト 301	カナダ 501	イタリア 715
タイ 107	ラオス 119	スー丹 302	アメリカ合衆国 502	ポーランド 721
マレーシア 108	マカオ 121	リビア 303	ドミニカ 607	チエコ 722
シンガポール 109	台湾 122	ケニア 307	ブラジル 608	ハンガリー 723
インドネシア 110	朝鮮民主主義人民共和国 191	タンザニア 308	ホンジュラス 618	ブルガリア 726
フィリピン 111		コンゴ 309	パナマ 619	スロバキア 732
香港 112		ナイジェリア 310	イギリス 707	ウズベキスタン 734

(第3表) 出身学校等コード

高等専門学校	11
短期大学(国内)	12
短期大学(国外)	13
その他(大学を含む)	19

(第4表) 学部, 学科コード

理工学部	13	数理科学科	5A
		物理科学科	5B
		知能情報システム学科	5C
		機能物質化学科	5DC
		機械システム工学科	5E
		電気電子工学科	5F
		都市工学科	5G

1 入学手続

入学手続については、合格通知書を送付する際にお知らせします。

※期間内に入学手続をしなかった者は、入学辞退者とします。

2 入学手続の内容

入学手続期間内において、関係書類の提出及び入学料の納入を完了してください。

入学料

282, 000円（入学手続時に納入してください。）

※この金額は、平成30年4月現在のものです。

（留意事項）

- (1) 入学時に入学料の改定が行われた場合には、改定後の入学料を納入していただくことになります。なお、合格通知書送付の際、納入方法を含め、改めてお知らせします。
- (2) 納入した入学料は、いかなる理由があっても返還しません。
- (3) 下記「入学料免除の申請対象者」のいずれかに該当する特別な事情により入学料の納入が著しく困難であると認められる場合、定められた資格・基準等に基づき書類選考を行い、入学料の全額又は半額免除及び徴収を猶予する制度があります。申請方法等については、学生生活課（0952-28-8486）にお問い合わせください。

入学料免除の申請対象者

- ・入学前1年以内に学資負担者が死亡した方
- ・入学前1年以内に本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた方

3 授業料について

（1）授業料の金額

前期分 267, 900円 後期分 267, 900円 [年額535, 800円]

※この金額は、平成30年4月現在のものです。

（2）納入方法

授業料は「口座振替制度」の利用をお願いしています。

（3）口座振替日

前期分 平成31年5月27日（月） 後期分 平成31年11月26日（火）

（留意事項）

- (1) 入学時又は在学中に納入金の改定が行われた場合には、改定後の入学料及び授業料を納入していただくことになります。
- (2) 下記「授業料免除の申請対象者」のいずれかに該当する場合、定められた資格・基準等に基づき書類選考を行い、授業料（半期分）の全額又は半額を免除する制度があります。申請方法等については、学生生活課（0952-28-8486）にお問い合わせください。

授業料免除の申請対象者

- ・経済的理由（各種ローンや負債の返済を除く）によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められた方
- ・入学前1年以内に学資負担者が死亡した方、又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が著しく困難と認められる方

4 奨学金

- (1) 独立行政法人日本学生支援機構法に基づき、願い出により選考の上、次の金額が貸与されます。

第一種奨学生(無利子) 貸与月額

自宅 45,000 円、自宅外 51,000 円

自宅・自宅外共通 30,000 円

第二種奨学生(有利子) 貸与月額

30,000 円、50,000 円、80,000 円、100,000 円、120,000 円から選択

なお、この他に地方公共団体等の奨学金制度がありますが、詳細は下記の問い合わせ先にお願いします。

- (2) 奨学金に関する問い合わせ先

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部学生生活課

TEL 0952-28-8172

5 編入学後の履修について

- (1) 入学者が高等専門学校、短期大学又は大学等において修得した単位については、各学部の規定に基づき、単位を認定します。

理工学部では、技術者教育プログラムの対象となる編入学者については、JABEE（日本技術者教育認定機構）の基準を満足する単位認定を行います。詳細は各学科のホームページを参照してください。

知能情報システム学科 <http://www.is.saga-u.ac.jp>

機能物質化学科 http://www.chem.saga-u.ac.jp/ChemInf/info_admit01.html

機械システム工学科 <http://www.me.saga-u.ac.jp>

電気電子工学科 <http://www.ee.saga-u.ac.jp>

- (2) 入学後は、各学部の所定のカリキュラムに従って、卒業に必要な単位を修得しなければなりません。

- (3) 在学年限は、2年以上4年以内とします。

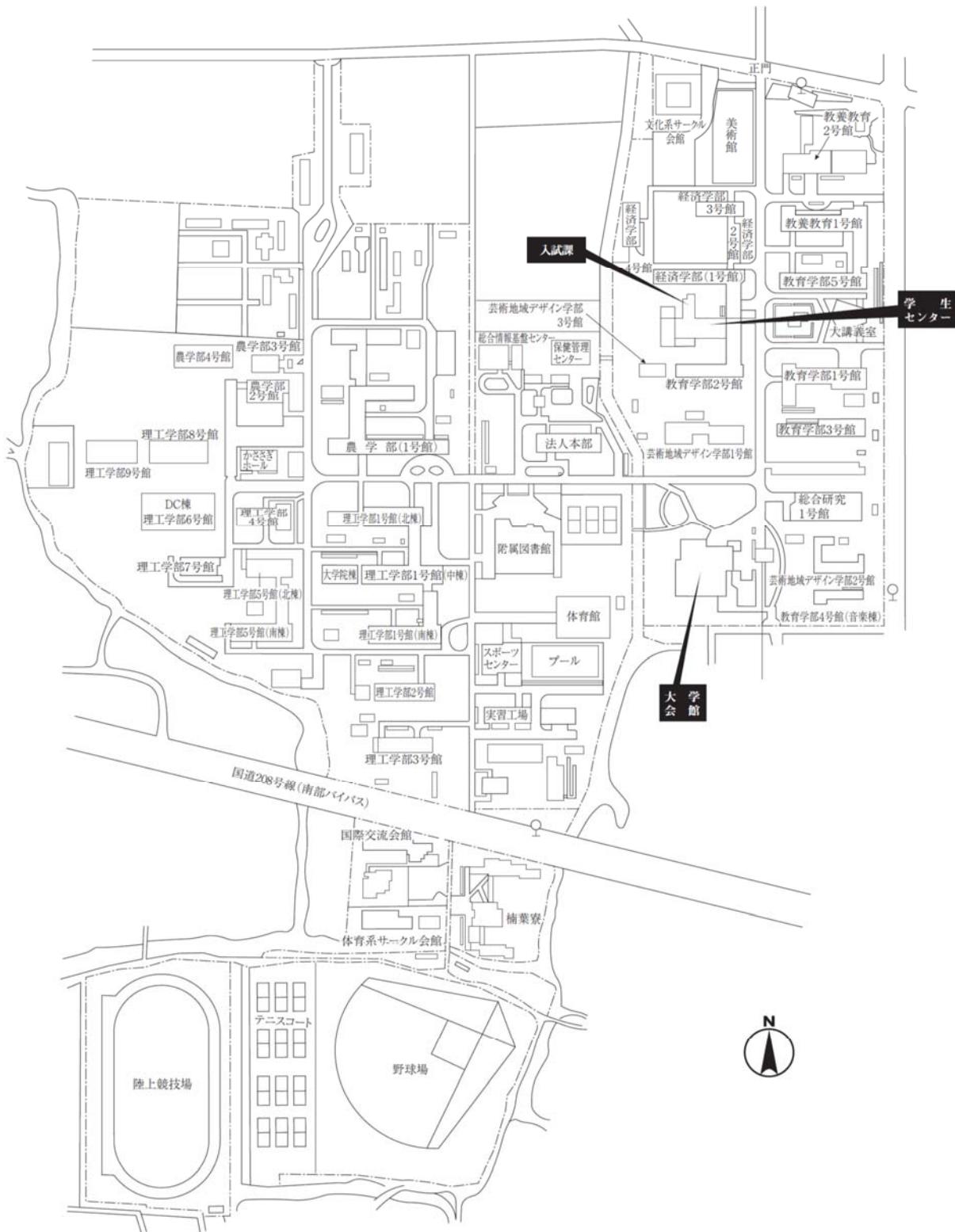
6 教員免許状やその他資格の取得について

教員免許状の取得を希望する者（短期大学等で2種免許状取得者及び取得見込み者を含みます。）やその他資格取得を希望する者は、出願前に学務部教務課の理工学部担当（0952-28-8517）へ確認を行ってください。特に、教員免許状の取得を希望する者は、教員職員免許法改正に伴い教員免許状が取得できない場合がありますので、必ず確認を行ってください。

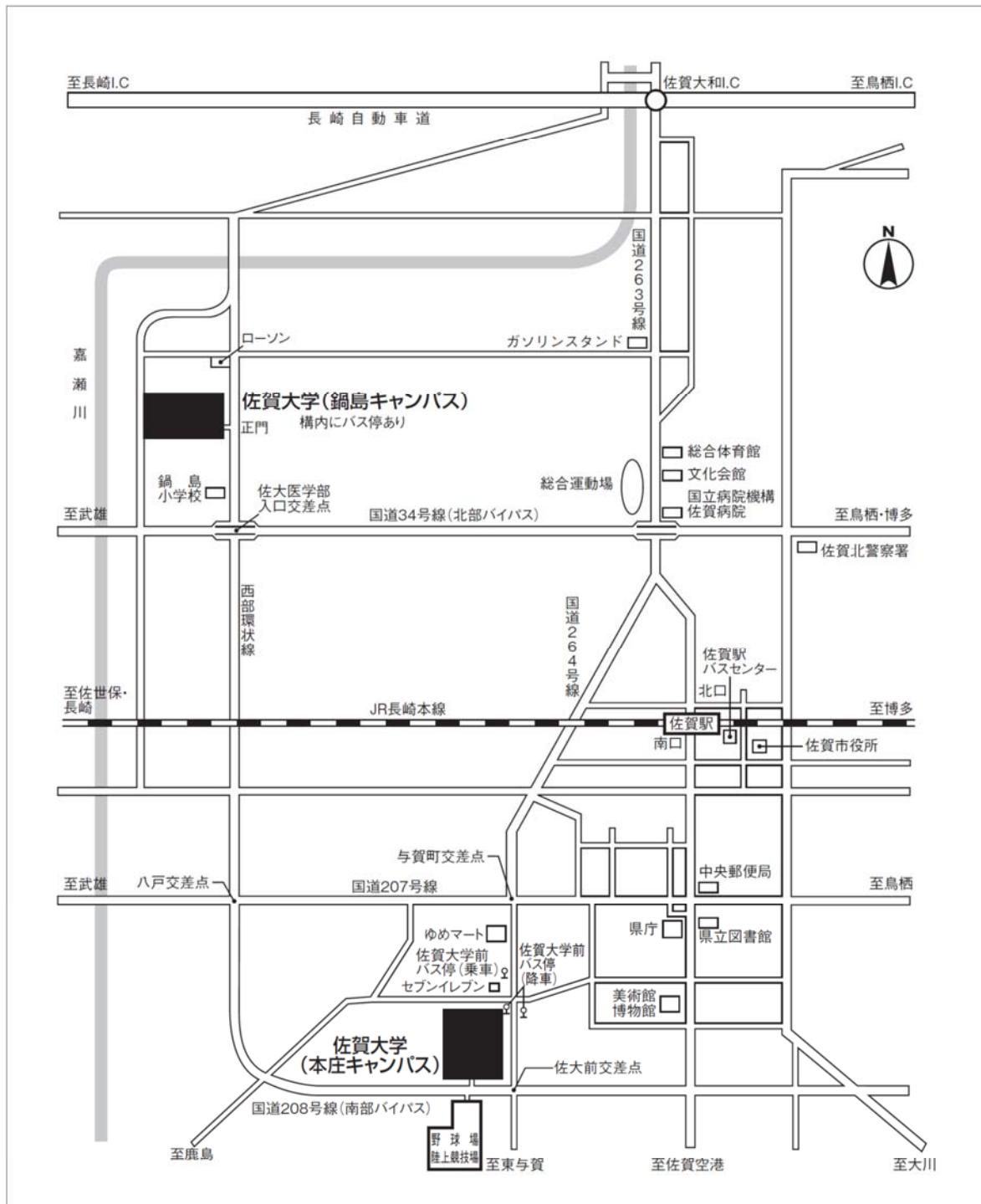
VIII 佐賀大学配置図及び佐賀大学への交通案内

佐賀大学（本庄キャンパス）配置図

[教育学部, 芸術地域デザイン学部, 経済学部, 理工学部, 農学部]



佐賀市内略図



佐賀大学（本庄キャンパス）への交通機関案内

- (1) 佐賀駅バスセンター4番のりばから市営バス〔4〕佐賀女子短大・高校線, 〔11〕佐賀大学・西与賀線, 〔12〕佐賀大学・東与賀線, 〔4〕または〔63〕佐賀女子短大・高校線で約15分, 「佐賀大学前」下車
 (2) 佐賀駅からタクシーで約10分

佐賀大学 学務部 入試課

〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1番地

TEL 0952-28-8178

ホームページ <http://www.saga-u.ac.jp/>

e-mail contact@mail.admin.saga-u.ac.jp